住まいと暮らしの情報紙

第1045号
2005年（平成17年）
11/11 ▼ 11/17

週刊 タイムス住宅新聞

28年間の実績と信頼
軍用地売買専門
真心のおつきあい
有限会社 開南コーポレーション
TEL 098-855-4141 沖縄県知事免許(2)第3230号 〒902-0073 那覇市上間197-2

密集地のリゾート生活

撮影／高野生優・フォトアートたかの

生活空間を広げるパティオ。周りを囲んだ木ルーバーは、タイルと色味を合わせてスッキリと

家づくりにあたり「耐久性第一に」と考えたT・Fさん。予算という壁も立ちはだかる中、完成したのは、外壁にタイルを施した、広いパティオのある住まい。密集地ながらリゾートのような暮らしを楽しんでいる。（2、3、12、13関連）

お住まい拝見

T・Fさん宅
（北中城村）

CONTENTS

■お住まい拝見 ……1・2
■快適つくる裏方さん ……3
■家づくりレシピ ……4・5
公庫融資の借入額を試算
■うまんちゅトーク ……7
■ニュース ……7
■まじゅん!高優賃 ……9
■第10回ウッディグランドフェア 10
新コーナー
■気軽にGreen Interior ……11
卵の中からミニグリーン！
■空間Collage ……12・13
■不動産情報 ……14～18
■集って住む ……19
■住まいと都市 ……20
■ひと ……21
■レベルupリフォーム ……23

発行所 (株)タイムス住宅新聞社 〒904-2234 沖縄県うるま市州崎7-14 電話代表 098-934-1122 編集部 098-934-2287 ■ http://www.jpress.co.jp 毎週金曜日発行

上写真／吹き抜けを介し、2階のダイニングキッチンとつながるリビング。隣接するパティオに面して設けた大開口から光・風・青空が取り込め、開放的。室内は壁や天井、建具まで白で統一し、明るくさわやかに。階段手すりはスチールで軽やかに

右上写真／2階のキッチンからダイニング、リビングへのつながりを見る。カウンターからも前方に広がるパティオや青空が眺められるよう配慮。コスト削減のため階高さを抑えているものの、柱や梁が出っ張らない壁式ラーメン構造を採用したことで、無駄なスペースがなく、スッキリ、広々とした印象

耐久性を第一に

■タイル張りありきでスタート

自身も建設関連の仕事に着き、塩害に詳しい友人がいたこともあり、「家を建てるなら、打ち放しではなく外壁はタイル張りに」と考えていたT・Fさん。子どもたちが成長しアパートが手狭になったのを機に、計画を本格化。住宅セミナーに顔を出すなどして情報収集に努めた。

「そのセミナーで〝沖縄でコンクリートの住宅を作るなら、タイルを張って躯体を保護するべき〟という講師の考えに共感。この人ならと設計を依頼することにしたんです」。

プランニングは互いの共通認識であった〝耐久性第一〟を踏まえてスタート。敷地は四十坪、限られた予算の中、必要な生活空間に加え、駐車場や庭も確保するべく、階高さを抑えた三階建てとし、予算調整。共働きで慌しい朝でも混雑が避けられるようにと、浴室・トイレも二つずつ要望した。

■各部屋に青空を取り込む

完成したのは、外壁が総タイル張りの三階建ての住まい。敷地の南側に設けた伸びやかなパティオを中心をL字型に囲むように建物を配置したことで、どの部屋からもパティオや青空が眺められ、開放感いっぱい。「外から見ると、中がこんなに広いなんて予想がつかないと、皆驚きますよ」と満足げに話す。

帰宅後の時間を過ごすのは、風が吹き抜け「夏でもクーラー要らず」というリビング。休日など、時間を見つけてはホームセンターに通い、パラソルやグリーンでパティオを演出。目下、育てやすい植物を思案中なのだとか。

「今度は、ここでゆっくりビールでも飲みたいね」と話したT・Fさん。手に入れたわが家で、自然を身近に感じるリゾート生活を楽しんでいる。

外観。耐久性を第一に考え、外観はすべてタイル張りに。躯体が水や空気にさらされる面を極力減らしたいと、47ミリ角の特注タイルを使用。目地幅は極力小さくなるようこだわった（写真提供／チームドリーム）

DATA

家族構成：夫婦、子ども2人
敷地面積：133.00㎡(40.3坪)
建ぺい率：46.4%(50%)
1階床面積：36.99㎡(12.02坪)
2階床面積：40.87㎡(12.36坪)
3階床面積：45.30㎡(13.70坪)

容積率：92.6%(許容100%)
用途地域：第一種低層住居専用地域
躯体構造：鉄筋コンクリート構造
工期：2003年1月～2003年6月
設計：チームドリーム
　　福村俊治・具志好規

施工：㈱米正建設　山城
電気：城間電気工事　城間
水道：㈲スイケン　仲村

沖縄のRC、タイルで保護 〝使える庭〟で広く楽しく

40坪に駐車場3台分と庭確保

敷地は四十坪、予算と言う壁も立ちはだかる中、建物の耐久性の向上を図りつつ、開放感のある住まいを実現させたT・Fさん宅。「しっかりとした耐久性の維持と敷地利用を考えた上で成立するのが楽しいデザイン。その可能性を追及するのが重要」と話す設計者の福村俊治さんに、設計の背景を尋ねた。

快適つくる裏方さん

今週のお住まい拝見より

Q T・Fさんは家づくりにあたり、何よりも外壁の総タイル張りにこだわったとか。限られた予算の中、耐久性を維持するため、さまざまな工夫をなさっていますね。

A 一年中潮風が吹き、陽射しの強い沖縄でRC造の建物を建てる場合、塩害や陽射しによるコンクリートの中性化・鉄筋の腐食を防ぐ工夫は欠かせません。県内で一般的に用いられる手法は塗装ですが、T・Fさん自身、建設関連の仕事に携わり、塩害に詳しい友人がいたこともあり、当初からコストは掛かっても、よりコンクリートの耐久性を維持できる「タイル張り」を要望していました。

敷地の広さと必要な生活スペースを照らし合わせた結果、三階分が必要に。そこで、限られた予算内で実現するため各階高さを抑え、構造上問題のない西・南側の壁面の一部はブロック壁とすることで、コンクリート流し込みの量を減らすなどしてコストを削減。そのほか、耐久性を維持する工夫として、スランプ12センチの固いコンクリートを使用し、屋上の防水加工や内壁も塗装するなど、二重、三重に配慮しています。

Q 外から見るとコンパクトですが、三台分の駐車スペースの奥にはリビングと連続する広々とした12坪のパティオも登場！ 四十坪とは思えないつくりは驚きです。

A 車社会の沖縄で家をつくる場合、特に敷地が狭いと一階をピロティーにというのは、よくある話。もちろん駐車場も必要ですが、だからといって、せっかく土地を購入したのに庭を作らないのはもったいない。

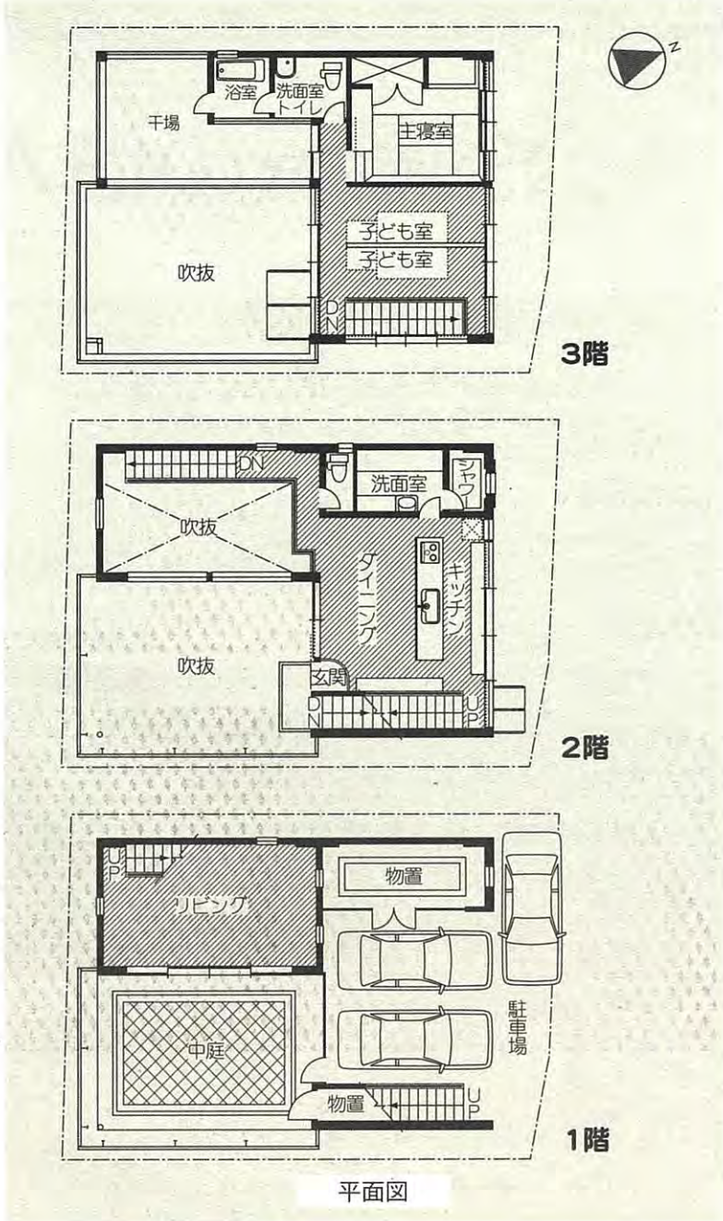
T・Fさん宅では玄関やダイニングキッチン、寝室といった主要な生活空間を二・三階に上げることにより、一階には三台分の駐車スペースを設けつつも、吹き抜けのリビングや広い庭を確保。庭は室内感覚で活用できるようタイル張りとし、周囲を二階高さまで木ルーバーで囲うことで、屋外でありながら屋内のように使える空間として提案しました。

温かい沖縄では、一年を通して青い空の下、自然の光や心地良い風を感じながらのんびりと寛ぐ、さながらリゾートのような生活が可能。そのためにも、眺めるだけに終わってしまう庭でなく、外部の視線をうまく遮ることで気兼ねなく過ごせる〝使える庭〟をつくることが大切です。

Q どの部屋も大きな窓に青空が映りこみ、爽快。パティオに緑を植えたり、子ども達が野球やバスケットの練習をするなど、一家は開放的な暮らしを楽しんでいるようですね。

A 室内は階高を抑え、天井懐を省いたほか、一・二階は吹き抜けを介してLDKのつながりを持たせ、通風も確保。またどの部屋もパティオに向けて大きな窓を設けて、開放感を演出。柱や梁が出っ張らないシンプルな壁式ラーメン構造を採用したことも、室内をスッキリ、広く感じさせるのに一役買っています。三階の水回りもガラス張りとし、青空を眺めながらのびのびとバスタイムが楽しめるよう配慮しました。

住まいは、家族の住み方や耐久性、敷地利用を考え、長持ちする住宅を設計するのが先決。その上で、楽しいデザインが成り立つと考えます。そして何より望ましいのは、手を掛け、メンテナンスを行うなど、施主自身に愛着を持って住みこなしてもらうことです。



平面図

居ながらにしてリゾート気分

屋外ながら室内のように使える半戸外スペース。青空や緑を眺めながら、心地よい風に吹かれてのんびり寛ぐひと時は、さながらリゾート気分。そのためにも、上手に視線を遮り、影をつくったり自然の風を取り込むなど、“使える庭”として仕立てよう。

空間Collage（コラージュ）

表紙で紹介したT・F邸では、視線を気にせず光や風を取り込める窓が多く、屋内からはパティオが連続し、街に対して建物も豊かな表情を持つ。「庭」「照明」「窓」「キッチン」から暮らしを楽しむポイントを探ってみた。

庭・照明・窓・キッチンで、暮らしが変わる

家を楽しくする4つの方法

現在では、市街地などの密集地に住宅を建てざるを得ない状況が見られる。せっかく窓を設けても、締め切ったり、ブラインドを下ろしたままでは内にこもった暮らしになり、もったいない。かといって、プライバシー確保のために閉鎖的な造りで、街に背を向けて生活をするのもよくない。

さわやかな光が降り注ぎ、心地良い風が吹き抜ける沖縄だからこそ、それらをうまく住まいに取り込み、近所や地域の人とも仲良くしたい。プライバシーを確保し、外からの視線を和らげながら、窓の大きさや配置、庭の取り方を考えていくことが大切。特に室内からつながる庭は、光と風を呼び込むだけでなく、庭そのものが室内の延長として、仲間や親せきらとの集いや家族のくつろぎスペースに。行事や集まりごとの多い沖縄では活用度が高い。

表紙で紹介したT・F邸では、敷地40坪に駐車3台のスペースを確保しながら、12坪のパティオ（庭）も設けている。このパティオがあることで、そこに向けて大きな窓を取ることができ、そこにパラソルやチェアを置き、周りをガーデニングで演出したりと、自然を身近に感じる屋外空間となっている。

このほか、住まいを楽しむ提案は照明やキッチン計画にも。照明は明るすぎる蛍光灯を避け、電球色の間接照明を壁面に。昼は自然光で明るく、夜は最小限の明かりで、温かい雰囲気を作り出す。毎日使うキッチンは、家事に立つ人が楽しく作業が行えるよう、建物二階のリビングとテラスを臨む位置に配置。収納には食器や鍋類をすべて収めることができ、スッキリ気持ちよく作業できる。

T・F邸では、庭・照明・窓・キッチンの計画から、「明るく」「風通しよく」「楽しむ」住宅を実現。それは家族や友人らとの楽しい暮らしや団らんを促し、さらには近隣や街といい関係を作り出す上ための演出・仕掛けの大切さを示唆している。

▲室内とアシャギとをつなぐパティオ

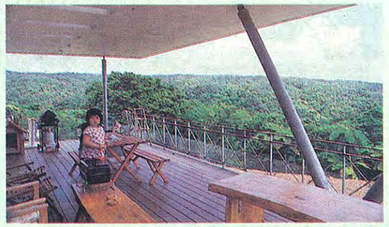
▲開放的な空間は、みんなが楽しむイベントにも大活躍

半戸外空間の必要性

戸外を利用できるのは沖縄の特性

設計者の福村俊治さんは、沖縄が年中温暖で戸外を常に利用できる環境にあることや、室内とつなげることでより広い生活空間が確保できるなどのメリットから、パティオのような半戸外空間を提案している。その場所が自然の快適空間となるほか、外部の雨や日差し、音を和らげ快適な室内環境につながるとも。また街づくりの点からも「家に閉じこもらず、半戸外空間から街へと生活空間を広げることが大事。外部に対し開くことは、よりよい環境や街をつくる点からも重要」と話す。

郊外、密集地など敷地により形は違うが、外と接する半戸外空間は、住み手の快適な暮らしや地域の豊かさにつながると言えそうだ。



▲郊外の半戸外空間。山が連なる眺望の良さを生かし、リゾートのようなテラス空間

▶市街地に設けた半戸外空間。二世帯の建物の中央に共有スペースを設けることでプライバシーを守りながら、互いの世帯をつないでいる

庭

屋内とは違う自然の快適空間

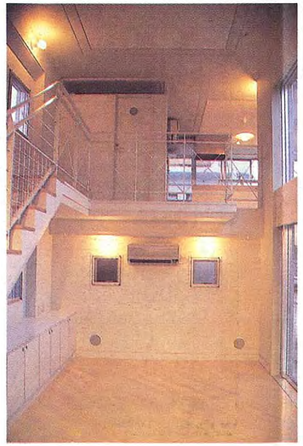
- 密集地であるため、周囲からのプライバシーを木製ルーバーで遮り、空に対して大きく開いた
- 室内と違う自然の光と風を感じる快適空間。デッキやチェアを置き、住宅内のリゾート空間に
- 室内の延長として利用しやすいようタイル敷きに
- 周囲にグリーンをあしらい楽しめる

庭は、光と風を取り込む一番いい南側に

F邸の模型。南側に向けた敷地の一番いい位置にパティオを確保。それを囲むように部屋が配置されている。F邸の玄関は2階だが、家族や親しい知人・親せきは、駐車場から直接パティオへアプローチする。室内への第二の入り口にもなっている

照明

ムード満点！変化する昼と夜



- 大きな主照明を設けず、間接照明を壁面に
- 明かりは温かな印象の電球色を使用
- 明るくし過ぎず、落ち着いた雰囲気をつくる

番外編

照明の演出、室内からこぼれる明かりがパティオを華やかに彩る

- 夜になると、木製のルーバーから温かな明かりがこぼれ、地域を照らす
- 2階、3階の居住スペースからもガラス越しに明かりが漏れ、楽しい団らんを感じさせる

窓

明るくすると、気持ちがいい！

- 洗面室、トイレ、浴室はガラス張り。木製のルーバーで囲んでいるため、視線を気にせず、明るさ・開放感を感じ入浴を楽しめる（写真上）
- 3階子ども室。部屋を囲むように窓を配置。開放すると、さわやかな風が入ってくる（写真中）
- パティオがあることで、開口を大胆に設けることができ、光と風をふんだんに取り込める（写真下）

キッチン

調理に立つ人を“主役”に

- リビングとパティオを正面に見る住まいの一番良い位置に配置
- 3階建ての2階部分に配置しているので、1階そして3階に居る家族の気配を感じ、また来客を前に楽しく調理できる
- キッチン横幅は3．5m、奥行80cm。作業しやすいゆとりを確保
- フラットなIHレンジ、キッチンには食洗器や収納を組み込みスッキリ
- IHレンジは火を使わないので安全、室内空気も汚さない

キッチンにスピーカー 音楽も楽しむ

F邸のキッチンには、設計者の提案により調理や食事をより楽しめるようスピーカーが組み込まれている。機材はキッチン横の収納の中に収まる。

背後は全面ガラスとなっているものの、食器棚の配置、さらに2階であることから周囲の目もさほど気にならない